

たんぽぽ

「たんぽぽや いくたび踏まれて きょうの花」



八南小学校 校長室だより

令和6年 5月14日 (火)

八南小の防災対策

11日(土)の親子ふれあい教室、地区別保護者会、引き渡し訓練にご参加いただきありがとうございました。毎年、引き渡し訓練を実施していますが、大地震などの大きな災害が発生したときは、子どもたちの安全のために、保護者の方に確実に引き渡すことが学校の責務だと思います。大きな災害は起きてほしくはないですが、もしもの時は、今回行った方法を基本として、状況によっては、よりよい方法に変更をしながら、安全に速やかに引き渡しをしていきたいと思っています。

元日の能登半島地震に限らず、地震は日本各地で頻繁に起きています。南海トラフ地震もいずれ起きると言われています。いつ起きてもおかしくない地震に備えて、八南小学校では、以下のことを対策として行っています。

- ・防災頭巾の常備（椅子のところに常にかけておき、すぐに頭を守れるようにしています。）
- ・避難訓練の実施（地震発生から、運動場に避難するまでの避難行動を学びます。）
- ・シェイクアウト訓練の実施（毎月1回、授業中、休み時間、掃除の時間など、さまざまな場面を想定して行います。とっさの判断で、机の下にもぐる、低い姿勢を取る、危険な場所から離れる等の行動が身につくようにします。）
- ・防災キャンプの実施（八南小おやじの会が中心となり、段ボールベッド、マンホールトイレ、消火器訓練、炊き出し、テント生活などの体験をします。体験を通して、地震が起きた時の心構えをもち、防災への意識が高まるようにします。）

地震以外にも、昨年6月のような線状降水帯発生による大雨や台風のような自然災害もあります。特に大雨や雷雨のときに難しいのが、下校の仕方やタイミングです。下校の仕方については、昨年度より「緊急時（暴風・豪雨）の児童の下校希望調査（本年度4月配布・回収済）」を配布し、集約することで各家庭の希望を把握することにしました。下校のタイミングについては、気象情報を注視しながら、適切な判断ができるようにしていきたいと思っています。保護者の皆様をお願いしたいのは、大雨や雷雨、台風が心配なときは、**学校からの学びポケットによる連絡**をこまめに確認していただきたいこと、4月に調査した下校方法と異なる方法を希望する場合は、**学びポケットの出欠連絡の機能**を使って学校に速やかに連絡いただきたいことです。また最終手段として、車でのお迎えを依頼する場合があります。

現状では、以上のような防災対策を考えていますが、ご意見、ご質問等ありましたら、遠慮なくご連絡いただければと思います。

アメリカインディアンの言葉

ご存じの方も多いかと思いますが、「子育て四訓」として、古くから伝わるアメリカインディアンの言葉に以下の4つがあります。この言葉を初めて聞いたときは、短い言葉の中に、子育ての本質が表れている

- 1 乳児はしっかり、肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ、手を離すな
- 3 **少年は手を離せ、目を離すな**
- 4 青年は目を離せ、心を離すな

ていると思います。「なるほど」と強く共感できました。子どもの成長過程において、それぞれの時期に応じた大人の接し方があり、この接し方を意識して子どもを育てていくことで、子どもは、各時期に必要なことを学びながら、少しずつ成長していくのだと思います。

小学校の時期は、3の少年期にあたり、大人は「手を放して、目を離すな」という接し方が必要になるそうです。小学生は、身近な大人や他の子どもたちと関わる機会が増え、行動範囲も広がっていきます。広く様々な経験をしながら、大切なことを学んでいきます。少年期、親は見守り、心配ですが我慢して、手を出し過ぎないことだと思います。ただし、絶対に目を離してはいけません。子どもの様子をよく見て、本当に必要なときは手を差し伸べてあげなければなりません。アメリカインディアンの言葉からもわかるように、どの国、どの時代でも、子育ての考え方に大きな違いはないようです。